

麦・大豆産地生産性向上計画 筑前町 (作成主体:筑前町水田農業推進協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

筑前町は、全耕地面積に対して米・麦・大豆の作付け面積が約8割を占める土地利用型農業が盛んな水田地域である。

近年、主食用米の国内需要が減少している状況を踏まえ、大豆の生産面積の拡大を図ると共に高収益作物への品目転換を推進していく必要がある。また、麦の実需を踏まえ高品質化を推進、生産力の強化を図る必要がある。

生産拡大を行うにあたっては、農業者の高齢化に伴い、1経営体の抱える作付面積に対し労働力が不足している状況も踏まえ、スマート農業を推進し効率化と省力化を図り生産面積の拡大を進める。

また、実需を踏まえたうえで関係機関と連携し需要が拡大基調である品種へ生産を移行し、単収の安定を実現する。併せて、米作から高収益作物への品目転換も推進する。

現在、筑前町においては、集落を単位としたブロックローテーションにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、高齢化に伴い、ブロックローテーションの継承が不安視されるため関係機関と連携し地域農業の更なる活性化を図っていくとともに、麦・大豆産地づくりを推進していく必要がある。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

筑前町で生産している麦・大豆については、ほぼ全量をJAを通じ県内の加工業者へ販売されているが、実需からの要望で高品質な品の安定供給を求められているが、天候の影響も受けやすくお互い納得のいく状況に至っていない。

麦については、高品質化及び増収を図るため、排水対策の徹底、生育後期の重点施肥等を推進、関係機関と連携し生産体制の強化に努める必要がある。大麦の過剰在庫が問題となっているため、大麦の作付面積を減少させる必要がある。

大豆については、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、早期播種の可能な品種への切り替えを図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

近年、麦の作付面積は横ばい、大豆については増加傾向で推移しているが、単収は長期的に低下傾向となっている。

近年の収量低下の原因として、播種・収穫時期の降雨や地力の低下が考えられる。排水対策の改善を図るとともに、定期的な土壌診断の実施を推進し地力の回復を図る必要がある。

また、担い手不足による農地の集約が急速に進み、1経営体あたりの作業面積が拡大することにより、適期での播種・収穫の逸失等が起り、単収低下を引き起こしているため、スマート農業の導入による効率化・省力化が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
裸麦	ダイシモチ	2	10	4	250	340	300	5	34	12
小麦	チクゴイシミ	1,046	1,012	965	376	472	345	3,935	4,777	3,333
	ちくしW2号	66	58	60	379	424	338	250	246	203
大麦	はるか2条	212	227	237	404	516	458	857	1,172	1,086
	ほうしゅん	385	391	0	209	367	0	805	1,435	0
	くすもち2条	0	6	425	0	500	384	0	30	1,630
作物計		1,711	1,704	1,691	342	452	370	5,852	7,694	6,264

作物名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	683	662	692	150	180	150	1,025	1,192	1,038
作物計	683	662	692	150	180	150	1,025	1,192	1,038

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
麦	1,562.2	91.3%	1,562.2	91.7%	1,553.9	91.9%	
作物計	1,562.2	91.3%	1,562.2	91.7%	1,553.9	91.9%	

作物名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	540.5	79.1%	518.2	78.3%	554.7	80.2%	
作物計	540.5	79.1%	518.2	78.3%	554.7	80.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

福岡県においては、「団地」は4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。